

まえがき

本書は、平成 13 年度にアジア経済研究所において実施された共同研究会「第三世界の紛争と国家」の成果である。この共同研究会は当初より 2 年間の予定で構想され、平成 14 年度には「第三世界の紛争 国際関係と国家形成」研究会に引き継がれる。最終報告は平成 15 年度に出版される予定である。共同研究会 1 年目の成果である本書は、中間報告として、資料的な性格が強いものとなっている。

この研究会には主に国際関係論や政治学をバックグラウンドとする 12 名の地域専門家が集い、東南アジア(フィリピン、インドネシア、カンボジア、ラオス)、南アジア(北東インド、カシミール、スリランカ)、中東(イラク)、アフリカ(シエラレオネ、ケニア、中部アフリカ、南部アフリカ)の紛争をめぐる議論を深めた。紛争という一つのテーマの下に多様な地域の視点が交錯する研究会の議論は、毎回スリリングで、かつ実り多いものだった。ラテンアメリカや東欧の専門家を加える余裕がなかったのは残念だが、平成 14 年度は中央アジア研究者にも参加していただく予定である。

本書の構成について簡単に述べておく。本書は、「序」および 2 部構成の本論からなる。「序」においては、研究会責任者の武内が研究会の射程を示した。研究会メンバーによる 12 本の成果は、その形態に応じて、第 I 部「分析編」と第 II 部「資料編」に分けられている。「分析編」には遠藤貢、酒井啓子、井上あえか、井上恭子、川島緑、天川直子、西芳実の各論考を、「資料編」には落合雄彦、津田みわ、武内、荒井悦代、山田紀彦がそれぞれ作成した年表などを配置した。

最後に、オブザーバーとして研究会に参加して下さった岡奈津子、平野克己、児玉由佳、福西孝弘(以上、アジア経済研究所地域研究第 2 部)、佐藤章(在アビジャン海外派遣員)、牧野久美子(在ケープタウン海外派遣員)の各氏、そして事務的な面でご苦労いただいた内木場照男氏(地域研究第 2 部)に感謝申し上げます。

平成 14 年 3 月

武内進一